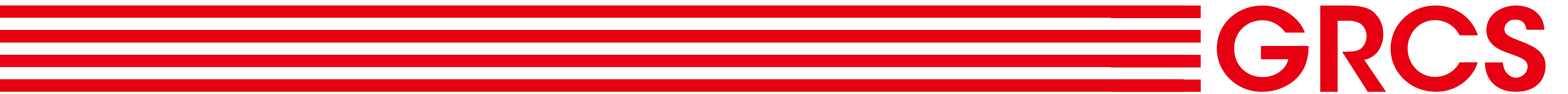


2024年11月期 第1四半期

決算説明資料

株式会社GRCS 証券コード：9250

2024年4月12日



進化に、加速を。

ミッション

私たちの使命は、進化を加速させ、自身も社会も成長させることです。
複雑に変化し続ける世の中で直面する多種多様なリスクへ敏感に迅速に対処するために
私たちは常に新しいことに挑戦し、進化し続けることで
クライアントが安心できるビジネス環境を提供し持続的な企業成長を支えます。

世の中を、テクノロジーでシンプルに。

ビジョン

私たちが目指すのは、テクノロジーによって「複雑さ」をなくした社会です。
G：ガバナンス、R：リスクマネジメント、C：コンプライアンス、S：セキュリティ領域における
複雑な課題をテクノロジーの活用によってシンプルに解決します。

アジェンダ

1. 2024年11月期第1四半期 決算概要
2. Topics
3. 業績予想について
4. Appendix

1. 2024年11月期第1四半期 決算概要

フィナンシャルテクノロジー事業

2024年11月
通期方針

「黒字経営」への変革 ▶ 成長投資を終え**収益化フェーズ**へ

売上高

868百万円

前期比28.6%増

売上総利益

359百万円

前期比158.6%増

EBITDA

133百万円

前期は△88百万円

営業利益

87百万円

前期は△96百万円

GRCソリューション・プロダクト

✓ 稼働率の改善により**収益化を実現**

- 生成 AI関連サービスを開始しメニュー拡大
- 前期大型案件の解約から同水準の売上高に回復

フィナンシャルテクノロジー

✓ **売切り型ライセンスを販売し売上高増加**

- 前期からのズレ込み案件の受注完了
- 既存顧客から追加案件も受注し通期予想に目途

業績サマリ

(単位：百万円)	2023/11 Q1	2024/11 Q1	増減額	増減率	2024/11 通期業績予想	進捗率
売上高	675	868	193	28.6%	3,315	26.2%
GRCソリューション・ プロダクト	538	536	▲1	▲0.3%	2,480	21.6%
フィナンシャル テクノロジー	136	331	194	142.3%	835	39.7%
売上総利益	139	359	220	158.6%	—	—
売上高総利益率	20.6%	41.4%	—	+20.8pt	—	—
販売費及び一般管理費	236	272	36	15.5%	—	—
EBITDA	▲88	133	221	—	—	—
営業利益	▲96	87	184	—	53	162.0%
経常利益	▲93	83	177	—	34	238.9%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	▲106	66	172	—	17	389.2%

Points.

➤ 1
ズレ込み案件の受注完了
通期予想に対して
順調に進捗

➤ 2
パートナー企業経由の大型案件
解約の影響から
前期同水準まで回復

➤ 3
フィナンシャルテクノロジーで
売切り型ライセンス販売
利益水準が大幅UP

➤ 4
現時点では保守的に
通期予想は据置

業績サマリ (四半期)

(単位：百万円)	2023/11 Q1	2023/11 Q2	2023/11 Q3	2023/11 Q4	2023/11 Q1	Y-o-Y 増減率
売上高	675	691	681	736	868	28.6%
GRCソリューション・ プロダクト	538	534	525	565	536	▲0.3%
フィナンシャル テクノロジー	136	156	155	171	331	142.3%
売上総利益	139	205	194	252	359	158.6%
売上高総利益率	20.6%	29.8%	28.6%	34.2%	41.4%	+20.8pt
販売費及び一般管理費	236	234	230	236	272	15.5%
EBITDA	▲88	▲17	▲22	29	133	—
営業利益	▲96	▲28	▲35	15	87	—
経常利益	▲93	▲37	▲44	2	83	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	▲106	▲54	▲51	▲68	66	—

Points.

➤ 1 過去最高
売上高

➤ 2 過去最高
売上総利益

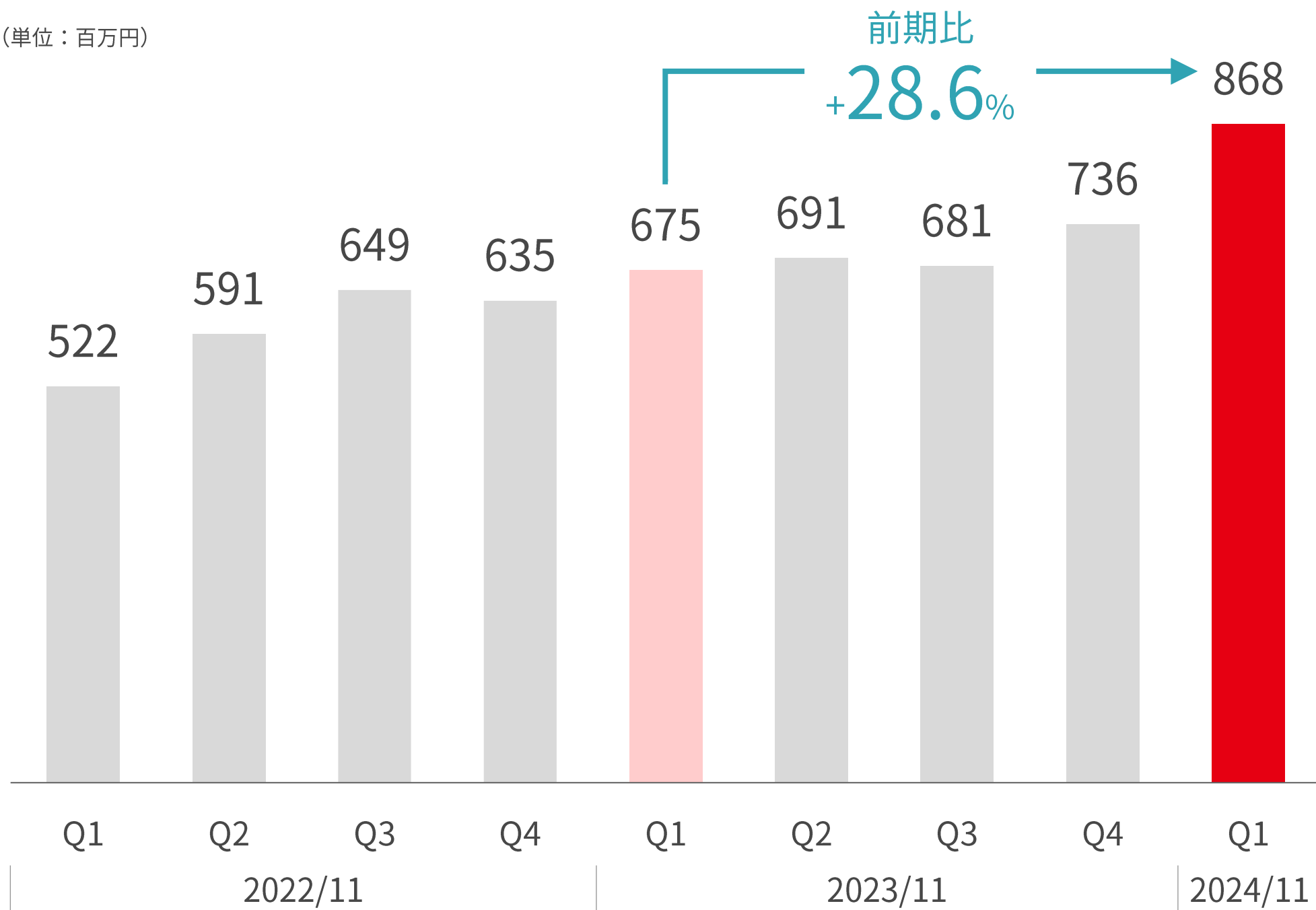
➤ 3 過去最高
粗利率

➤ 4 のれん償却額42百万円を除き
安定した販管費

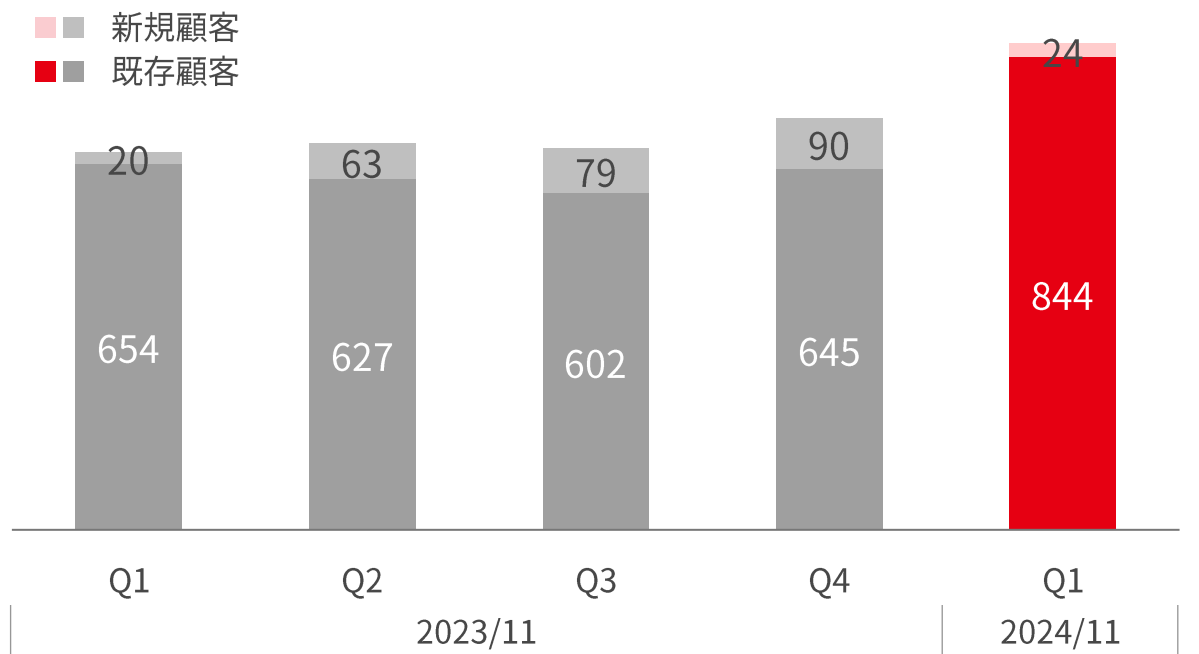
売上高推移（四半期）

✓ 売切り型ライセンスの販売によりプロダクト売上高が増加

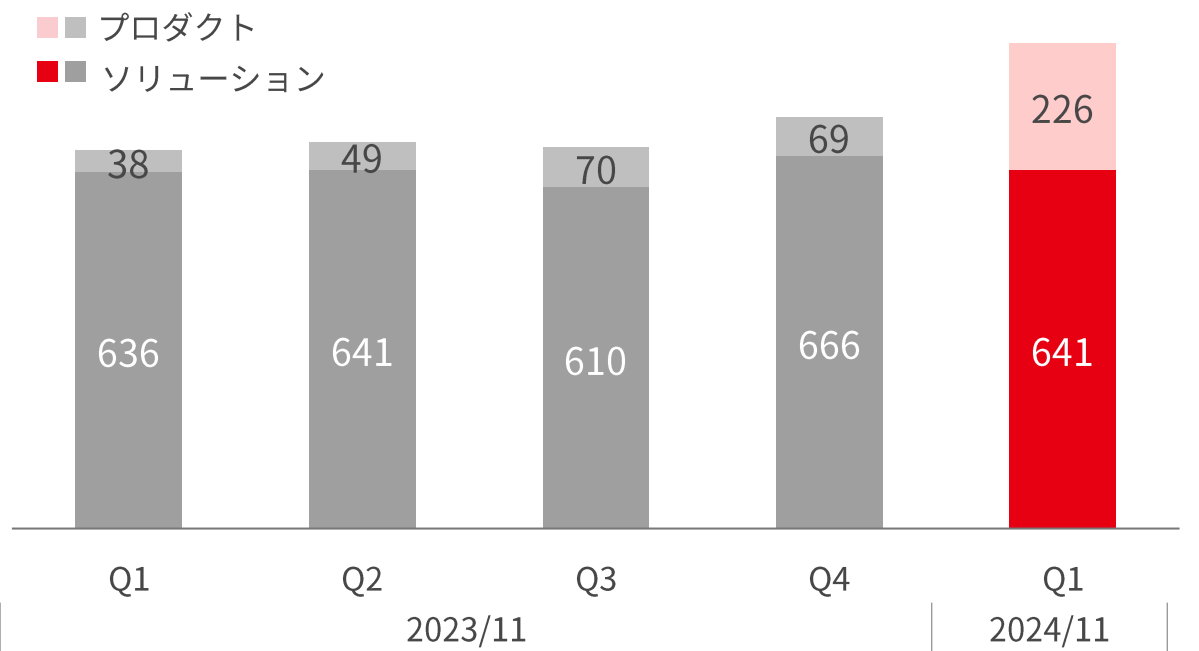
(単位：百万円)



既存顧客・新規顧客 (単位：百万円)



ソリューション・プロダクト (単位：百万円)

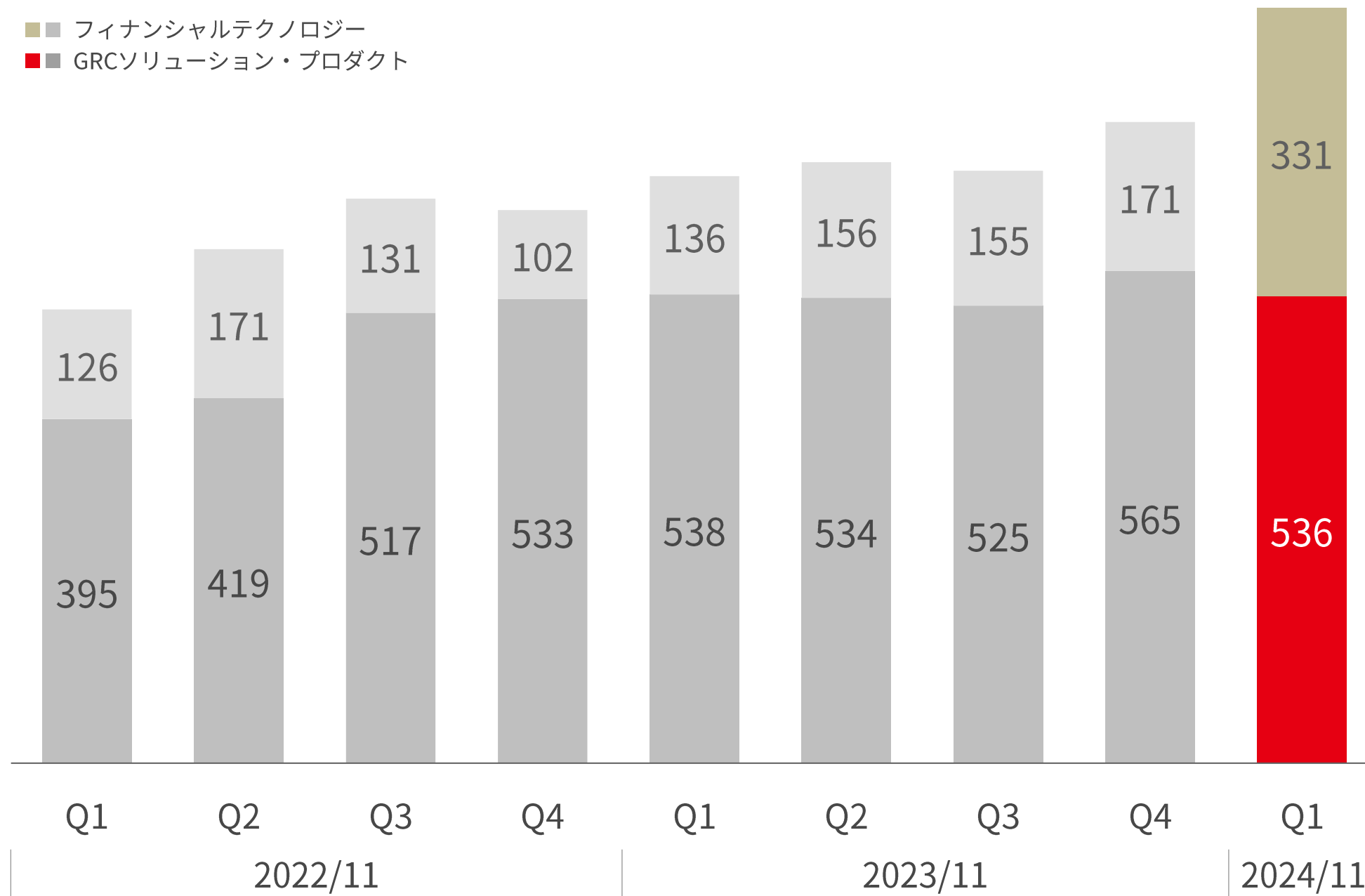


事業別売上高推移（四半期）

- ✓ GRCソリューション・プロダクトは、下期偏重の計画に対して順調に進捗
- ✓ フィナンシャルテクノロジーは、大型ライセンスの受注により売上高増加

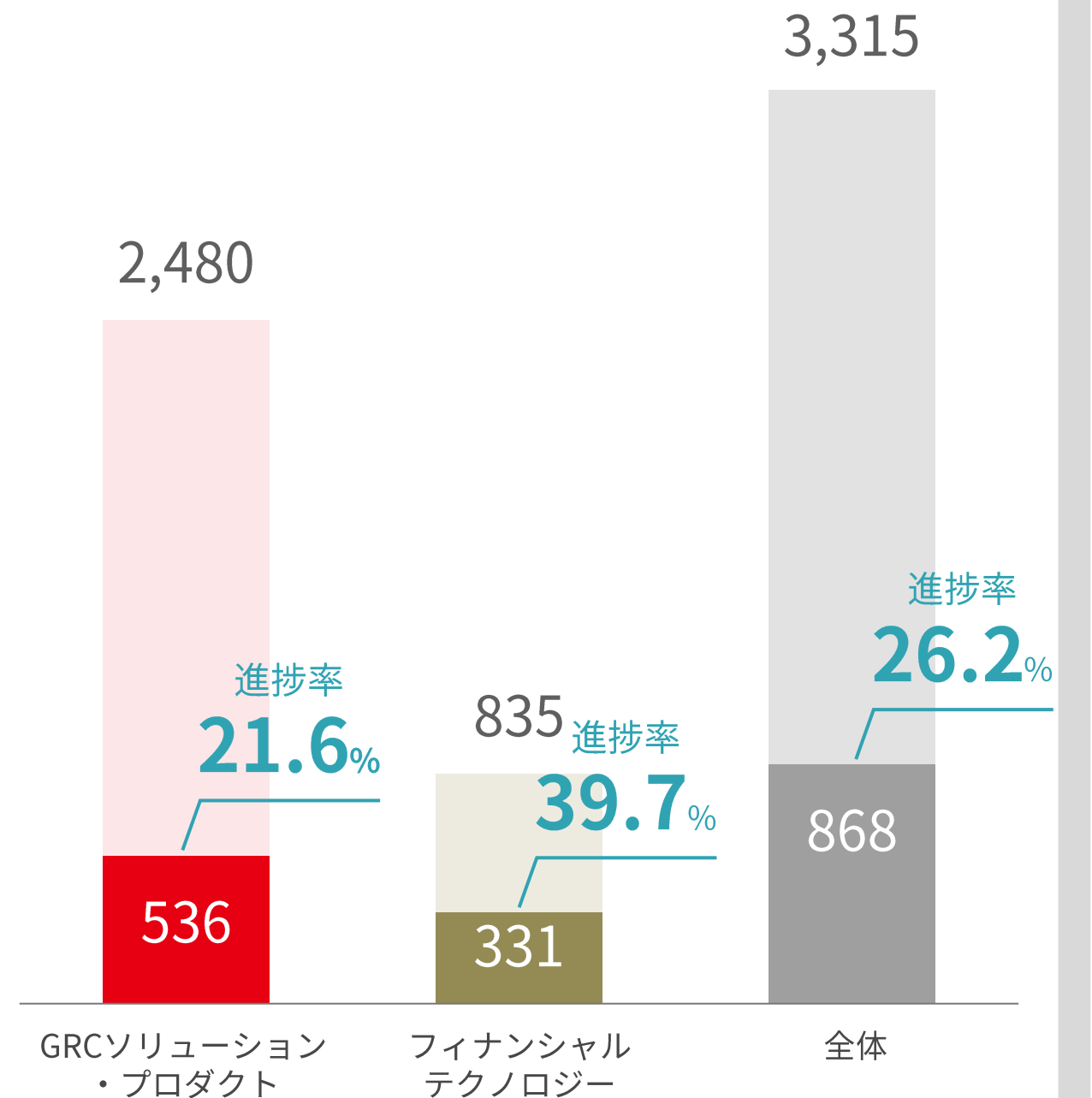
(単位：百万円)

■ フィナンシャルテクノロジー
■ GRCソリューション・プロダクト



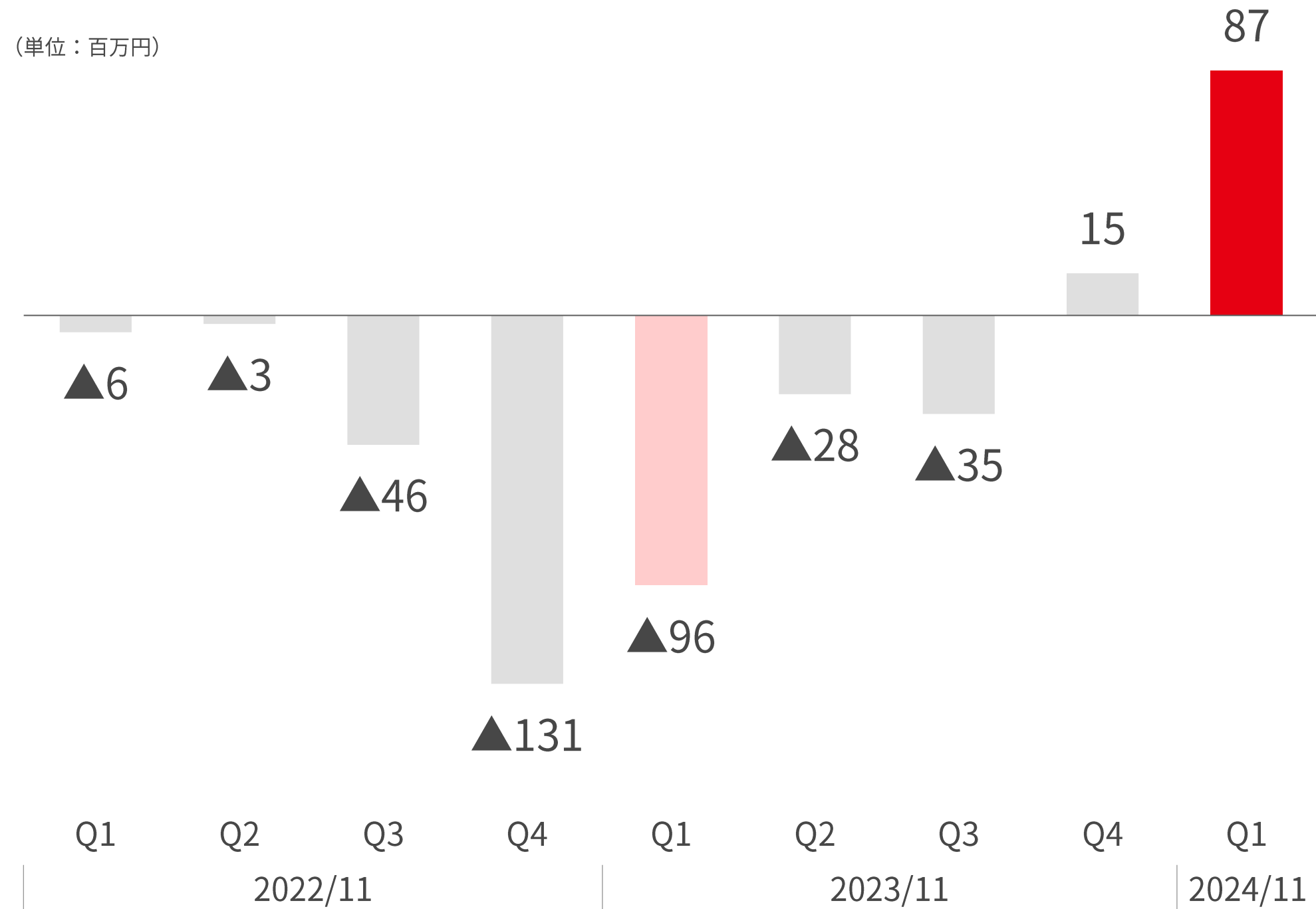
売上高進捗率 (単位：百万円)

■ 通期予想
■ 実績



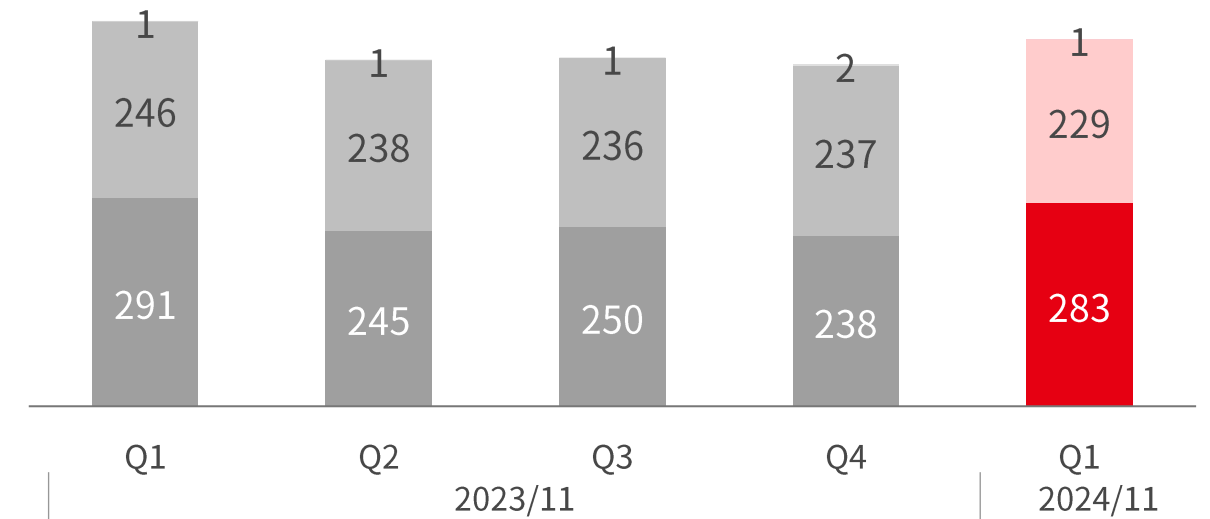
営業利益推移（四半期）

✓ 稼働率の改善と売切り型ライセンスの販売により**黒字化**

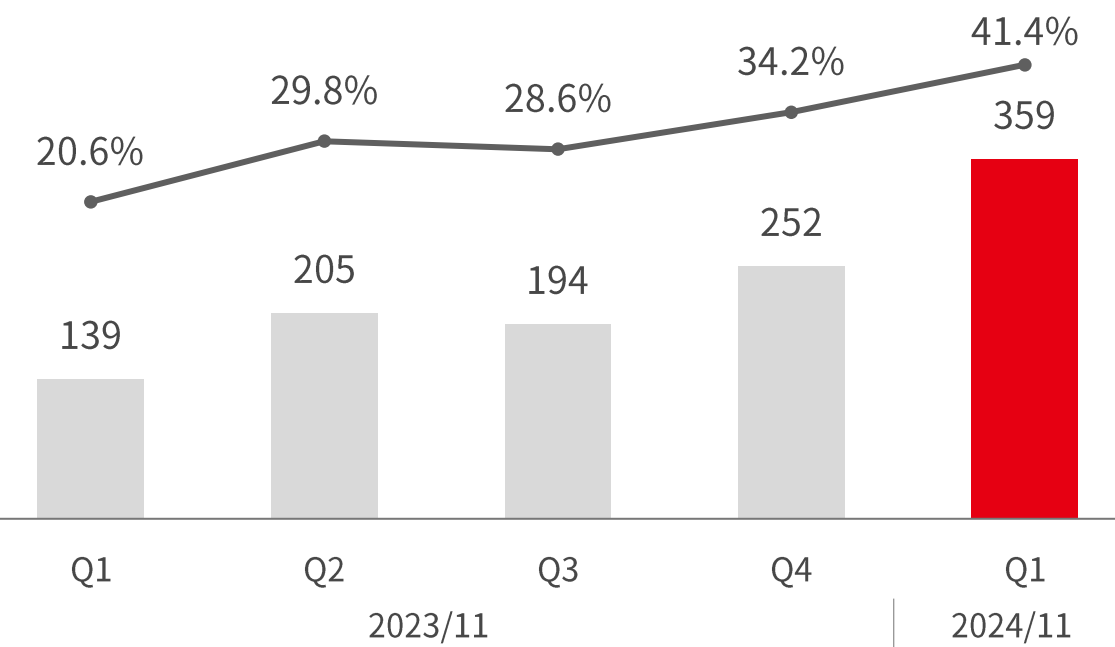


売上原価 (単位：百万円)

■ その他
■ 外注費
■ 労務費



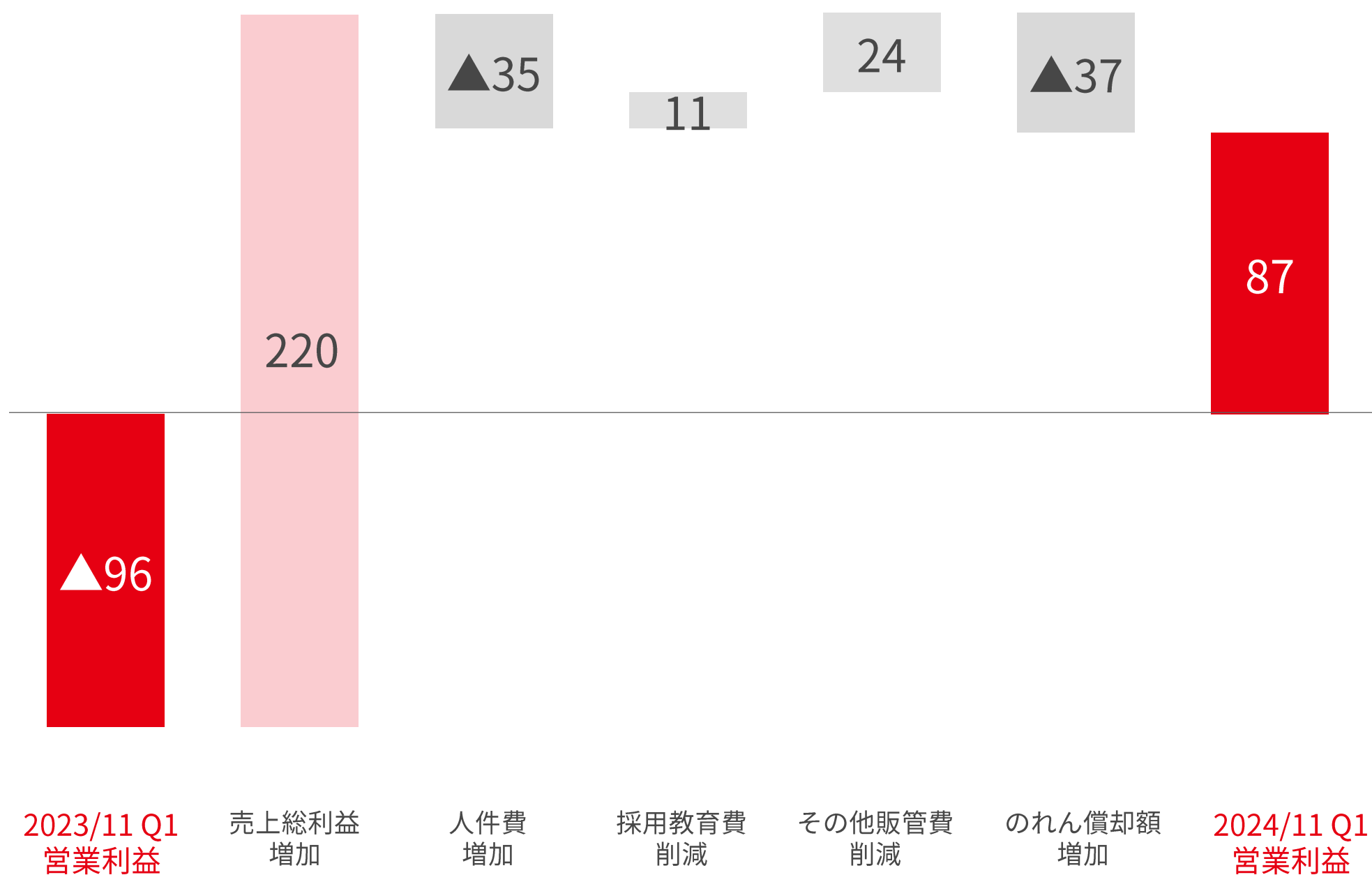
売上総利益・売上高総利益率 (単位：百万円)



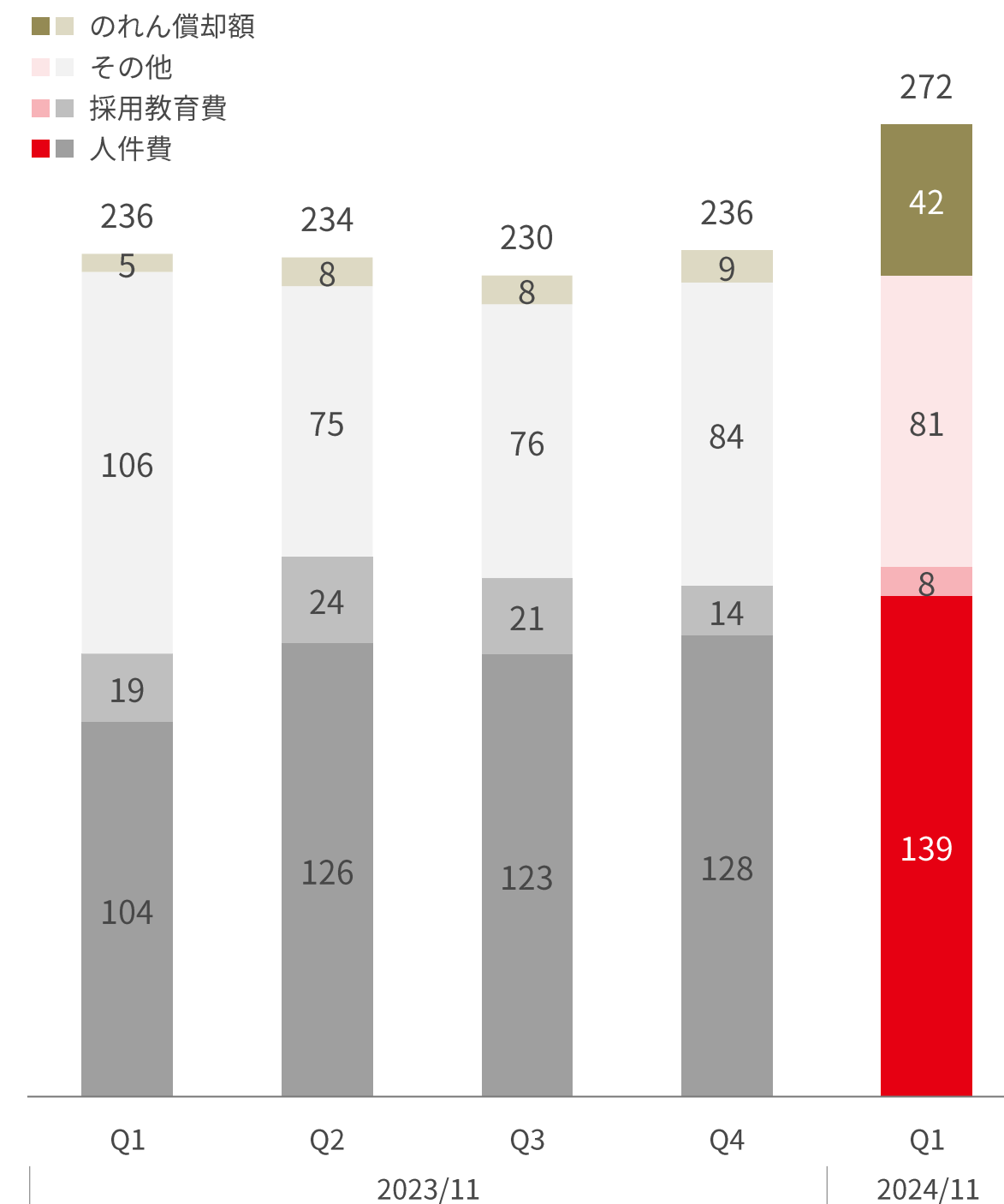
営業利益増減分析

- ✓ フィナンシャルテクノロジーの追加のれん取得により償却額増加
- ✓ 販売費及び一般管理費は前期同水準と計画通りに推移

(単位：百万円)



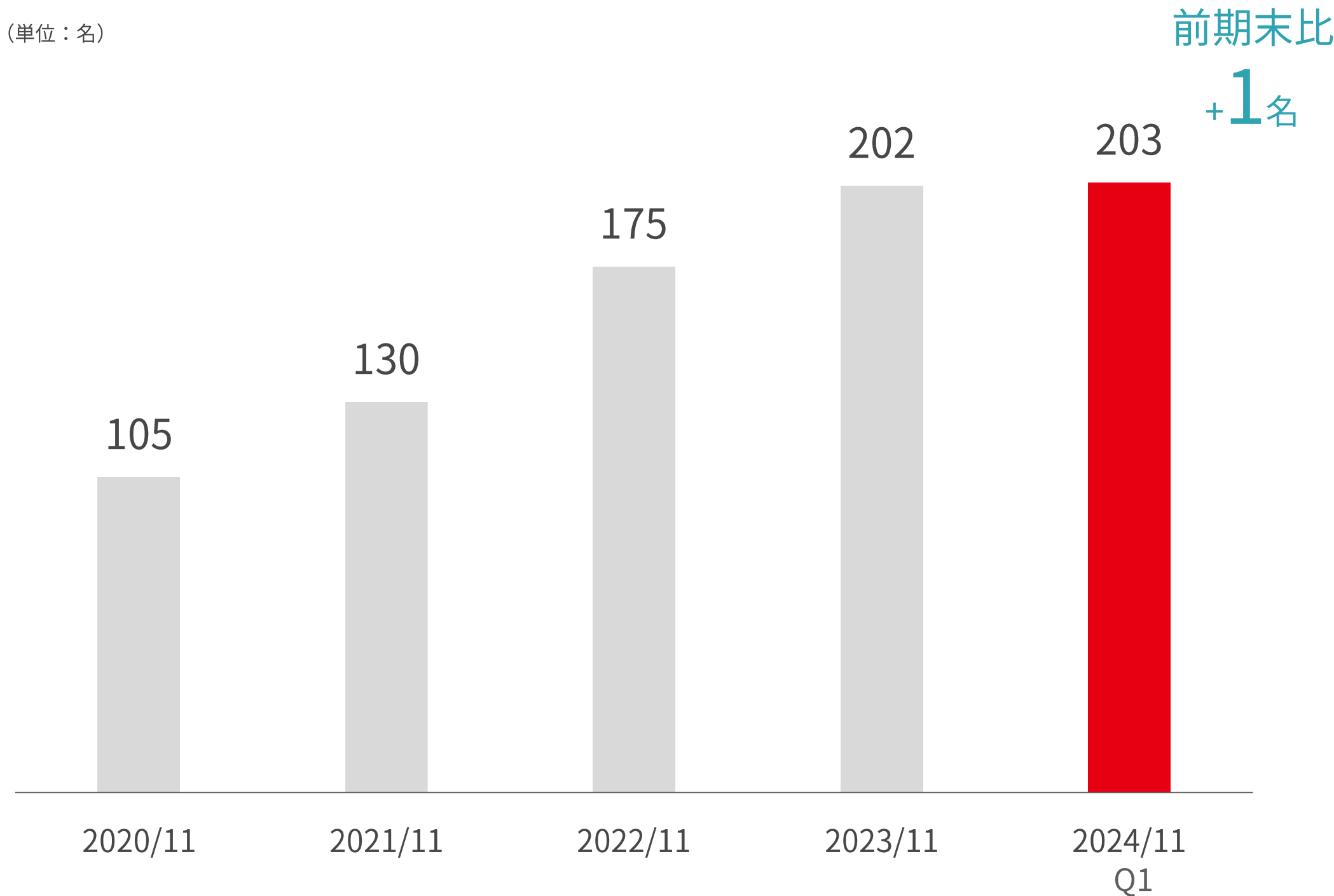
販売費及び一般管理費 (単位：百万円)



人員推移

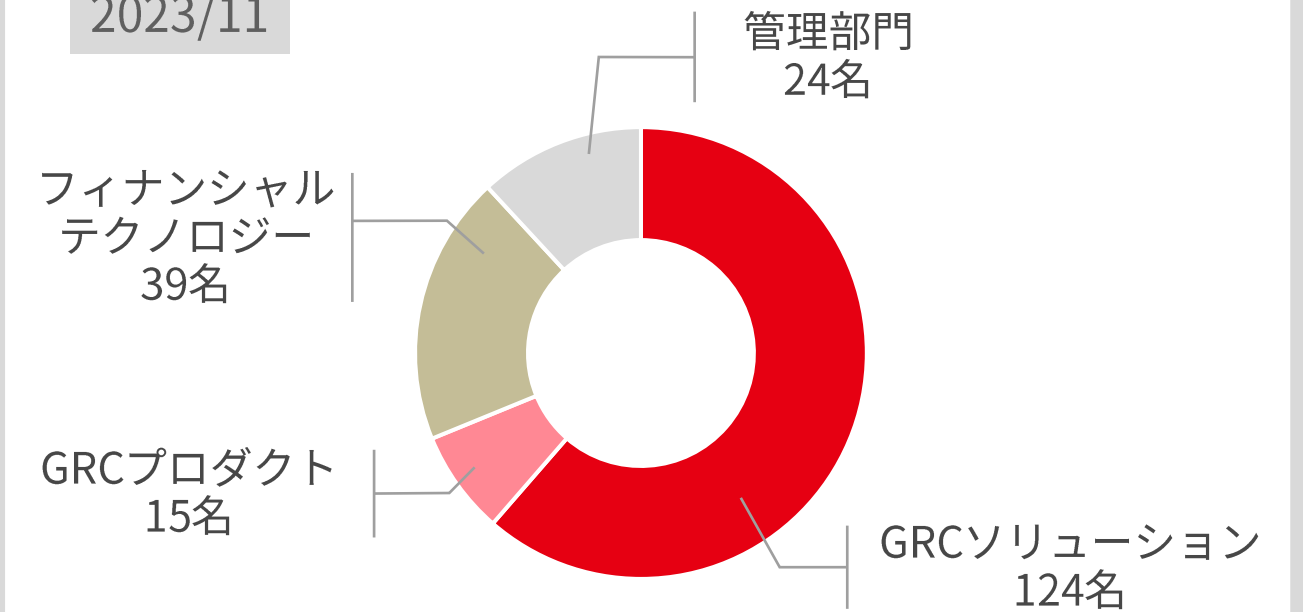
✓ 新規採用を抑制し稼働率の改善に注力、人員数は前期末水準

(単位：名)

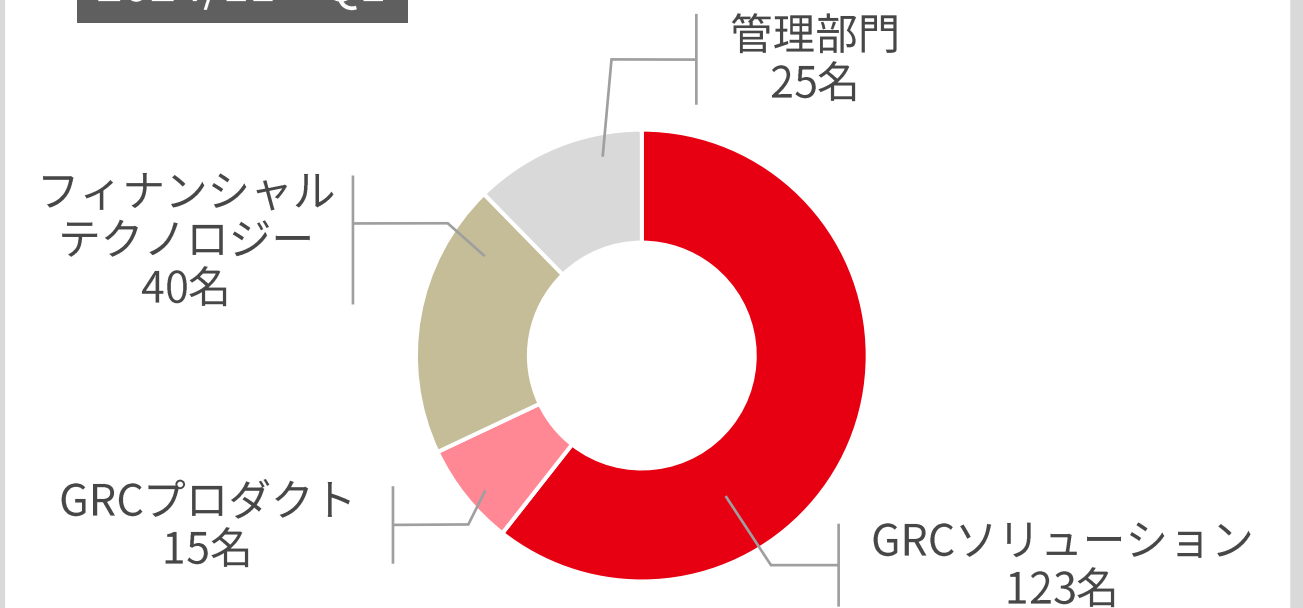


人員構成

2023/11



2024/11・Q1

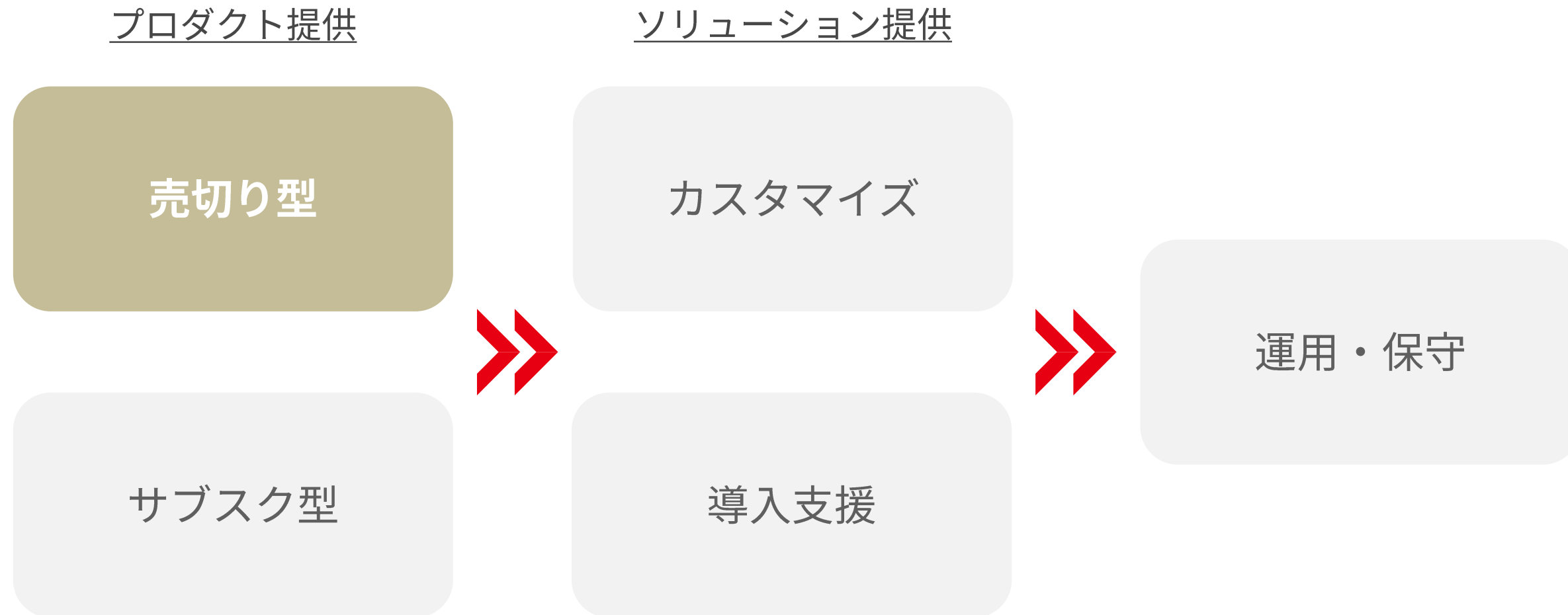


2. Topics

フィナンシャルテクノロジーのライセンス事業

- ✓ 第1四半期は**売切り型ライセンスを販売し**売上高・利益ともに貢献

サービスの流れ



提供プロダクト

- マッチングエンジン
- プライシングエンジン
- スマートオーダールータ
- オーダーマネジメントシステム
- トレーディングゲートウェイ
- 市場データシステム

生成AIセキュリティリスクマネジメント支援サービス

✓ 生成AIの活用促進と導入によるリスクの最小化・ガバナンス強化をトータルサポート

コンサルティング/教育



企業向け

生成AI利用ガイドライン策定

生成AIを社内で活用するためのガイドラインの策定を支援し、よりビジネスに生成AIを活用できるよう促進

製品導入支援/運用・保守支援



企業/法人向け

生成AI利活用支援

生成AIの利用状況や、機密情報の漏洩を防止するツールの導入支援し、生成AIを安全に利活用できるよう支援

運用・保守支援/教育



企業/グループ企業向け

生成AIセキュリティウェビナー

生成AIを利用するにあたってのセキュリティリスク等をウェビナー形式で提供

3. 業績予想について

2024年11月期 通期業績予想

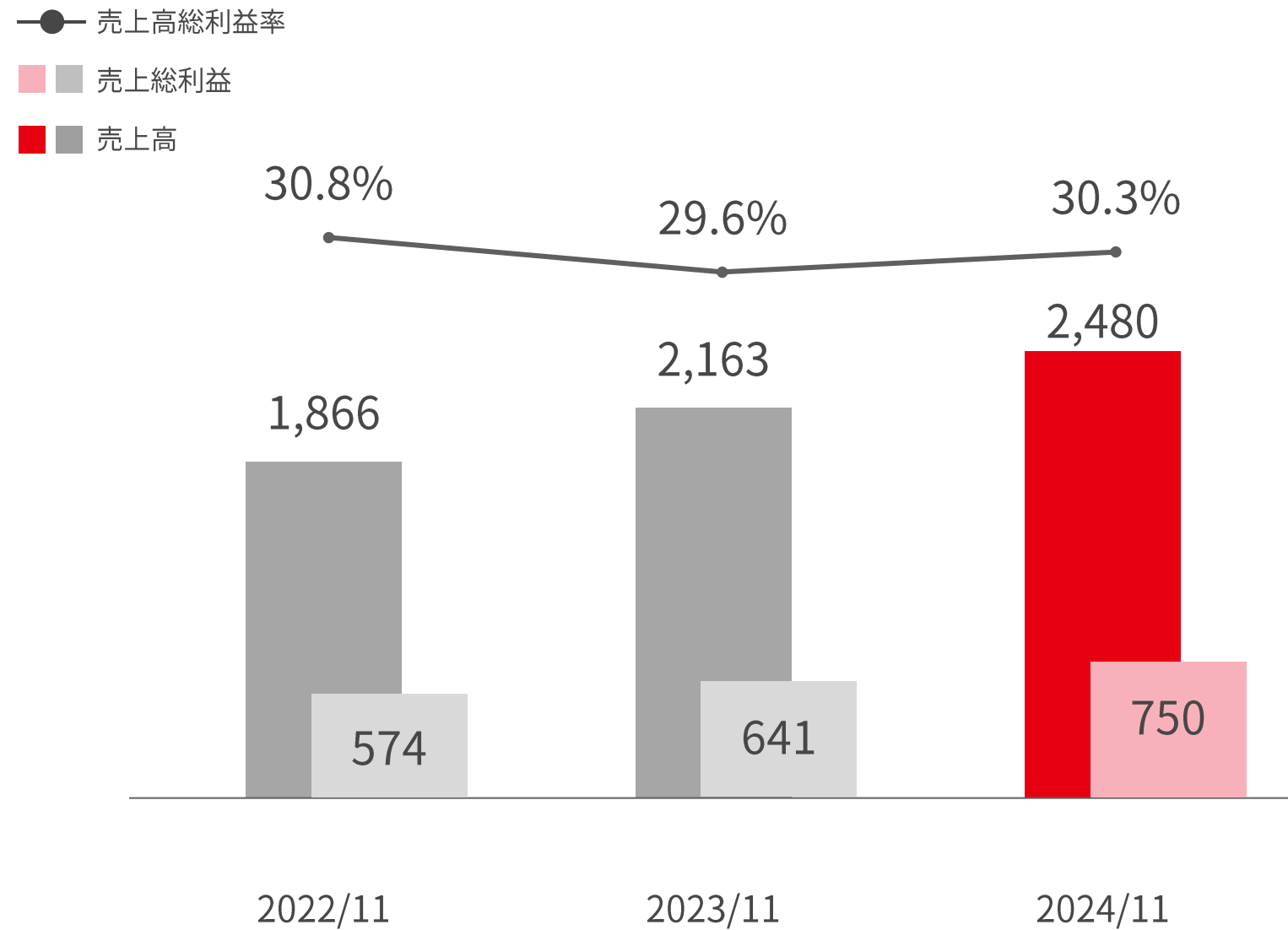
✓ 保守的なシナリオを考慮し業績予想は据置

(単位：百万円)	2023/11	構成比	2024/11 業績予想	構成比	増減額	前期比
売上高	2,783	100.0%	3,315	100.0%	532	119.1%
GRCソリューション・ プロダクト	2,163	77.7%	2,480	74.8%	317	114.7%
フィナンシャル テクノロジー	620	22.3%	835	25.2%	214	134.6%
EBITDA	▲98	▲3.5%	161	4.9%	259	—
営業利益	▲145	▲5.2%	53	1.6%	199	—
経常利益	▲173	▲6.2%	34	1.1%	208	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	▲280	▲10.1%	17	0.5%	297	—

2024年11月期 事業別計画

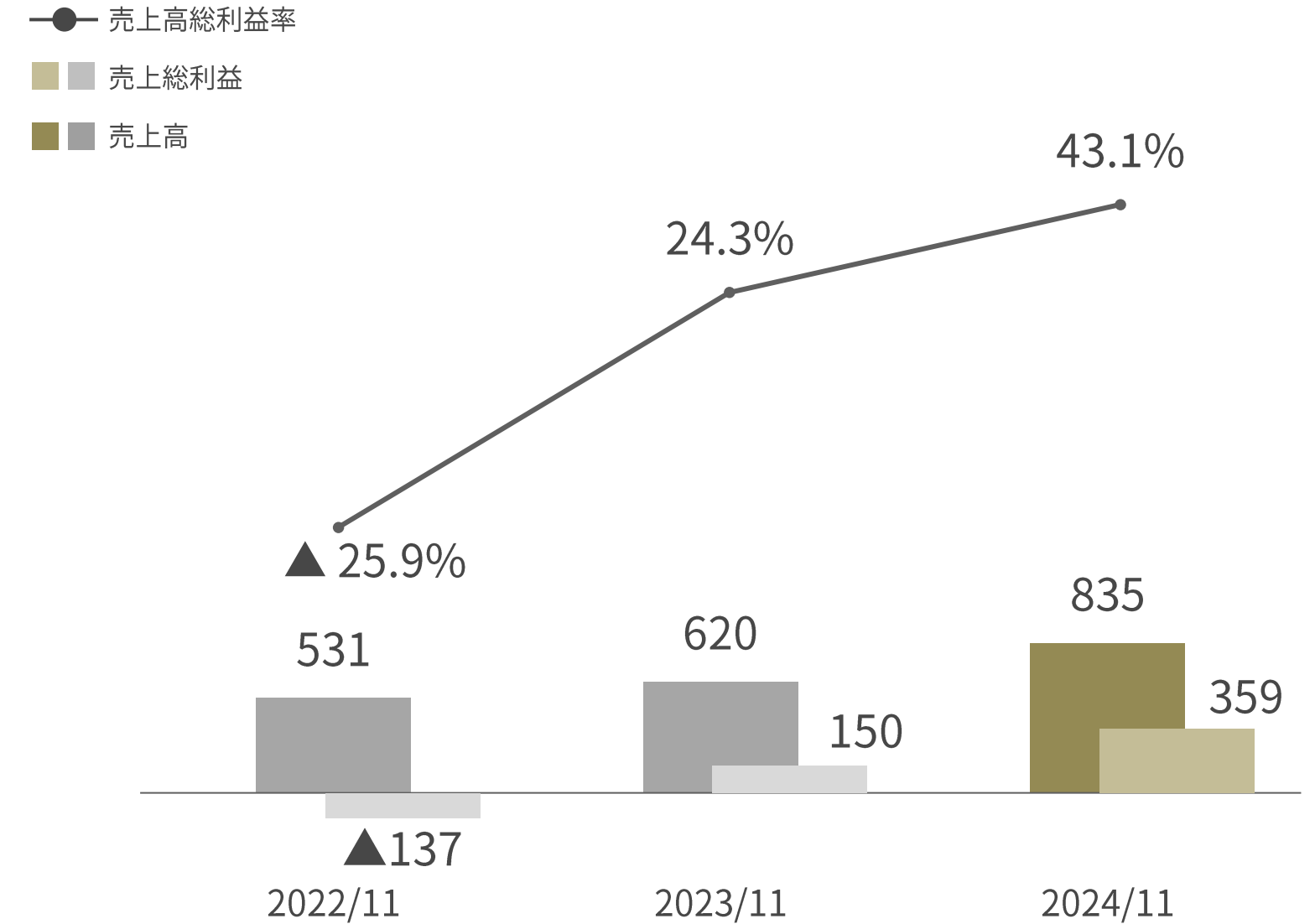
GRCソリューション・プロダクト (単位：百万円)

- ✓ 実績を踏まえた計画設計
- ✓ 稼働率の向上



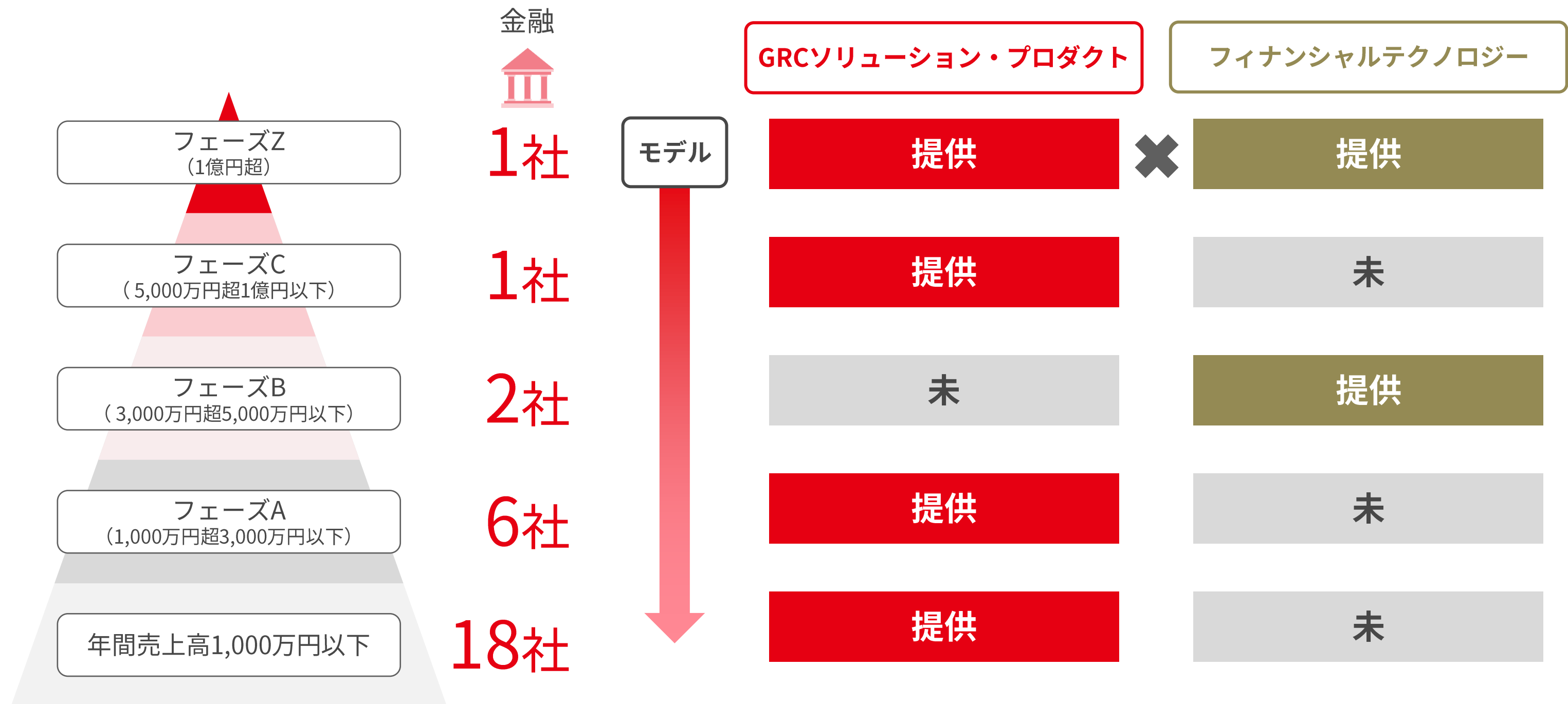
フィナンシャルテクノロジー (単位：百万円)

- ✓ ズレ込み案件の受注
- ✓ 売上の最大化による利益率の更なる改善



2024年11月期の取組み

- ✓ 金融業界に特化したクロスセルモデルを他社に展開
- ✓ 引合いの多い金融業界に注力、業界を絞ることで専門性向上



4. Appendix

会社概要

会社名	株式会社GRCS	役員体制	代表取締役社長	佐々木慈和
設立	2005年3月		取締役	塚本拓也
決算期	11月		取締役	田中郁恵
資本金	303百万円		社外取締役	久保恵一
所在地	東京都千代田区丸の内一丁目1番1号 パレスビル5階		社外取締役	山野修
従業員数	202名（2023年11月末時点・連結）		監査役	大泉浩志
			監査役	島田容男
			監査役	伊賀志乃



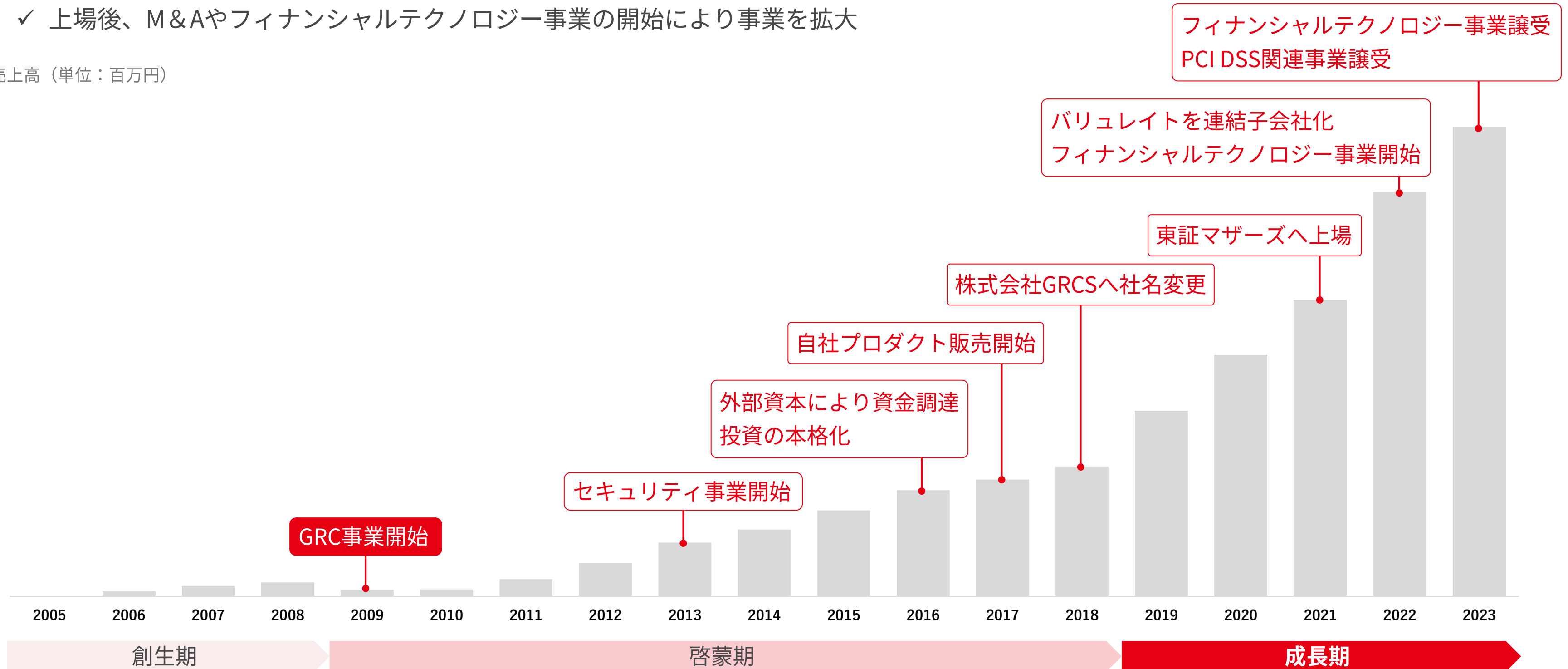
代表取締役社長 佐々木 慈和

1976年岩手県に生まれる。2001年南カリフォルニア大学コンピューターサイエンス学科を卒業。日本ヒューレット・パッカード株式会社へ入社、セキュリティコンサルティング業務へ従事。2005年3月、Frontier X Frontier株式会社を設立(2018年株式会社GRCSへ商号変更)。

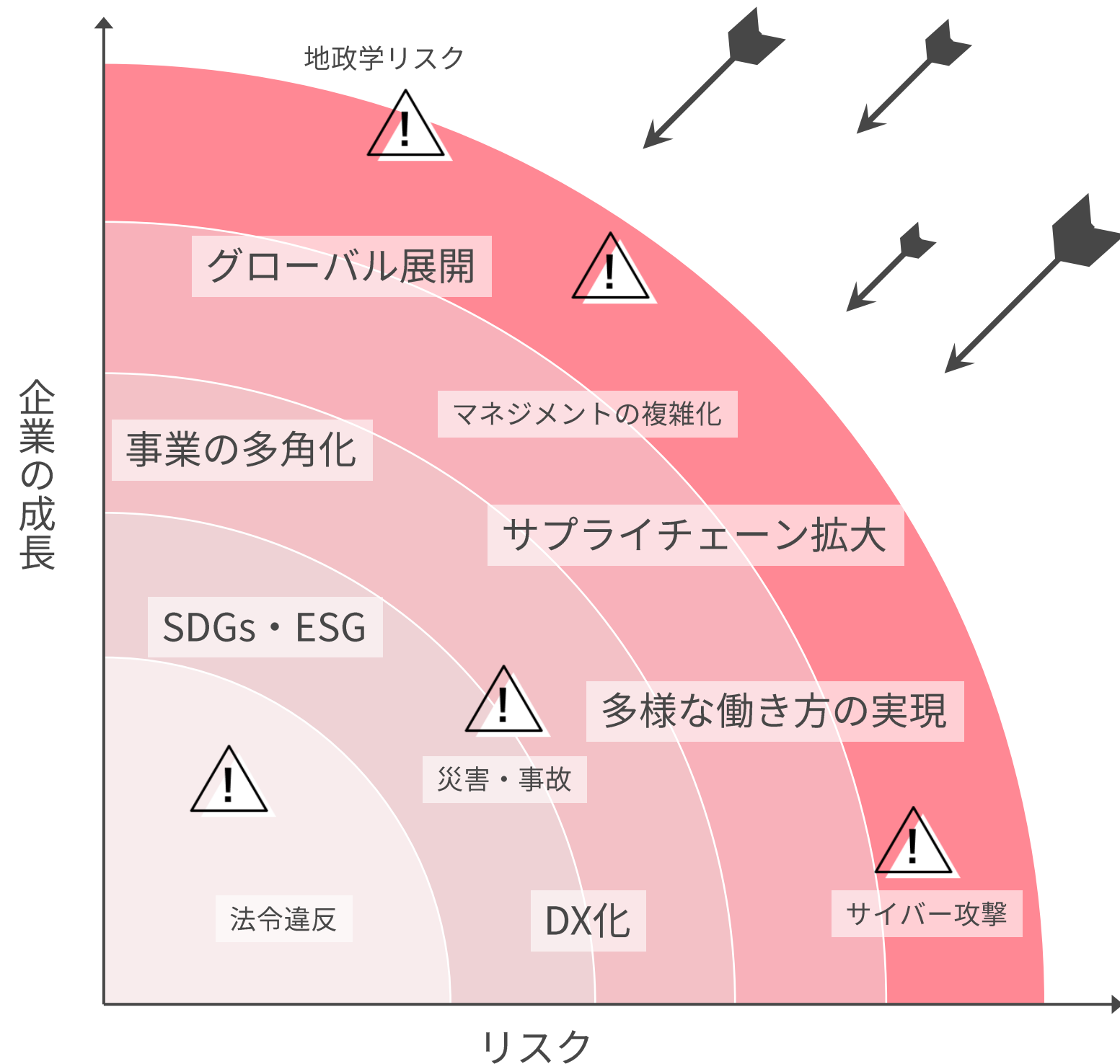
沿革

- ✓ 2009年にGRC事業開始以来、**14期連続増収**
- ✓ GRC事業のパイオニアとして10年以上蓄積されたノウハウとセキュリティ事業を組合せ、市場の拡大とともに急成長
- ✓ 上場後、M&Aやフィナンシャルテクノロジー事業の開始により事業を拡大

売上高（単位：百万円）



日本企業を取り巻く環境



企業の成長とともにさらされる脅威も増える

日本の企業は守備体制の構築が不十分

リスクを減らし、企業成長の**最大効率化**を支援します

G

ガバナンス体制の構築

R

リスクマネジメントの強化

C

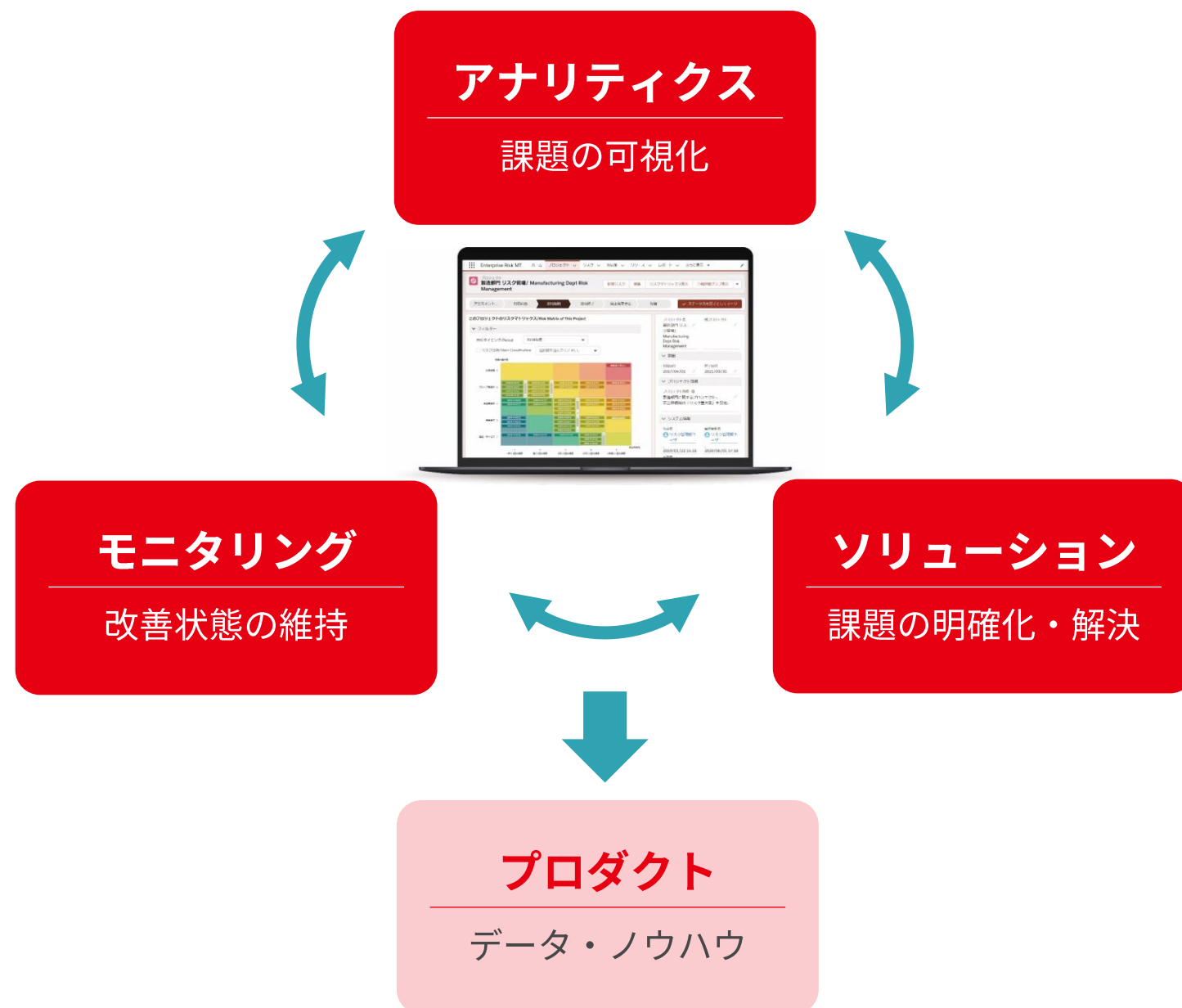
コンプライアンス意識の向上

S

セキュリティ対策の支援

GRCセキュリティ事業

- ✓ プロダクトの活用で企業課題を可視化
- ✓ 分析、解決、維持をワン・ストップ支援



フィナンシャルテクノロジー事業

- ✓ グローバル水準のハイスペックプロダクト
- ✓ 開発、実装、保守をワン・ストップ支援

キャピタルマーケット・ソリューション

金融資本市場ビジネスにおける
テクノロジーソリューションを提供

パートナーシップ・ビジネス

グローバルの最先端技術を日本の金融資本市場へ導入

グローバルオペレーション・ビジネス

金融機関の基幹システムを対象とした
モニタリングサービスを提供

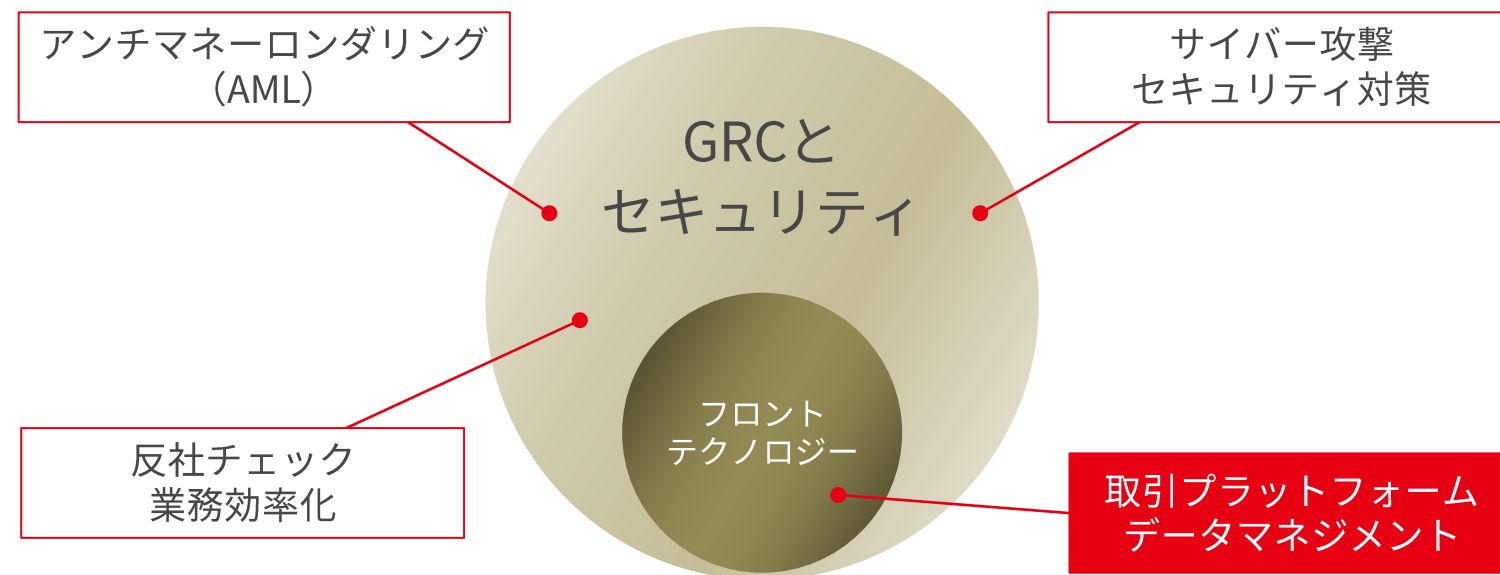
プロダクト
ライセンス

GRCセキュリティ x フィナンシャルテクノロジーの事業戦略

急速な進化と成長を続け、市場拡大が見込めるフィナンシャルテクノロジーにフォーカス

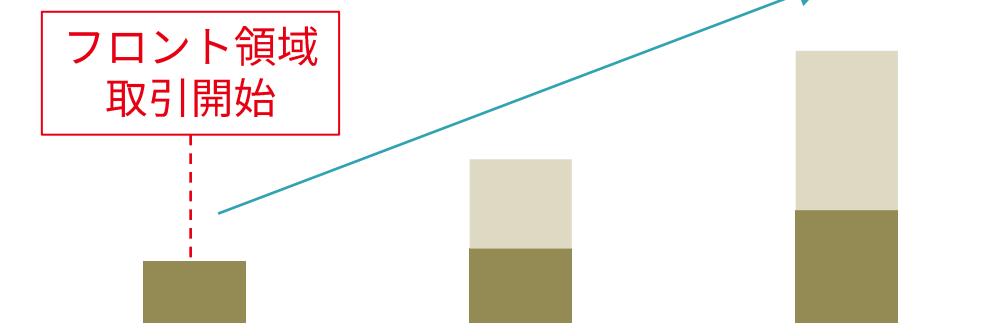
- ✓ 金融機関の収益に直結するフロント領域のテクノロジーは高度で進化のスピードが速い
- ✓ GRCとセキュリティ領域の課題もフロント領域の変化と同様に高度化
- ✓ 効率的なサービス提供により、金融業界での事業展開を加速するためフロント領域のサービスを本格化

サービス領域拡大の流れ

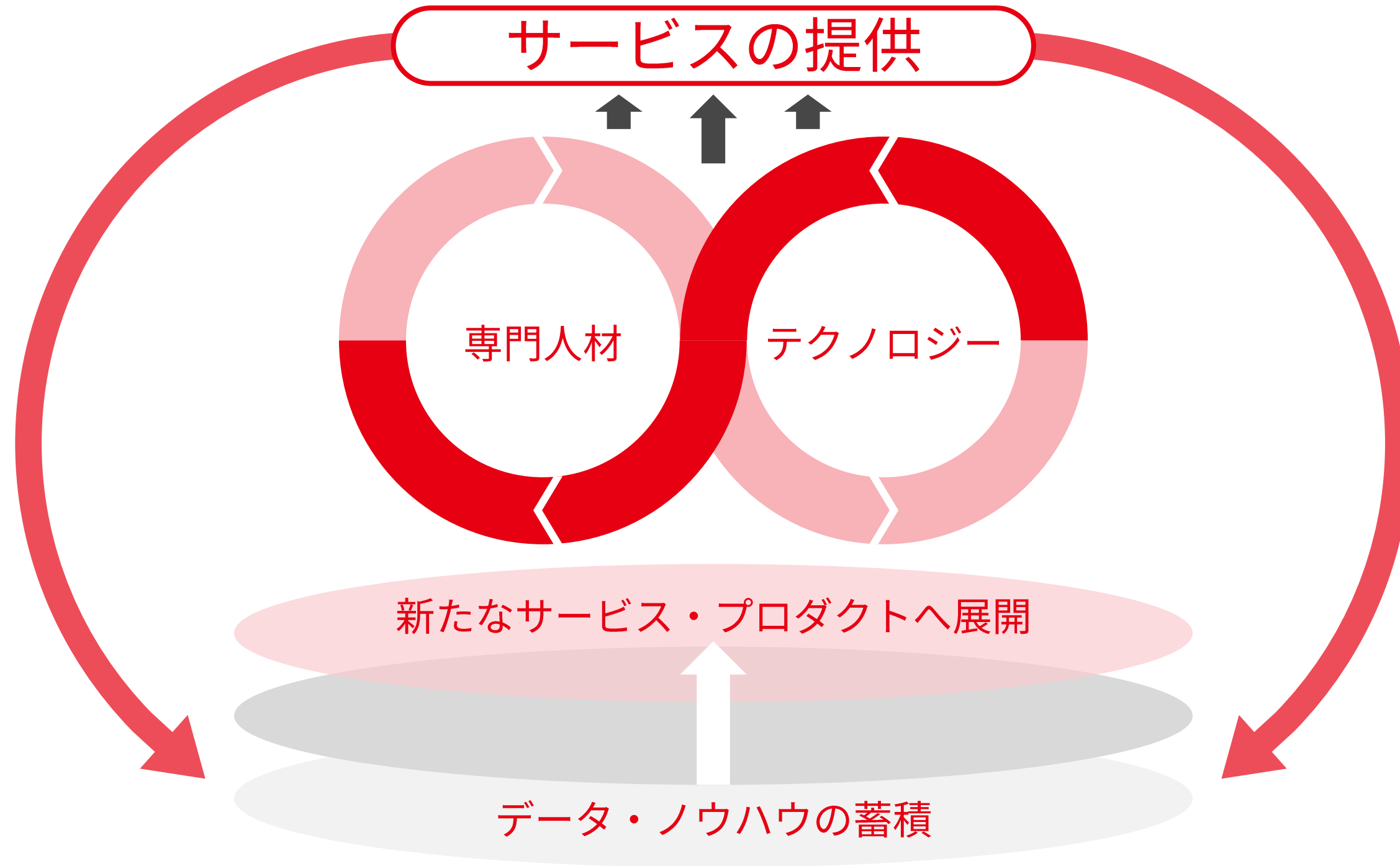


- ① 金融ビジネスのフロント領域から取引開始
- ② GRCとセキュリティ領域とワン・ストップサービスにより取引拡大
- ③ 技術の進化や環境変化を双方の領域に展開しシナジーを発揮

事業成長イメージ



フロント領域のテクノロジーを中心に取引を開始
関連サービスによりGRCとセキュリティ領域も拡大



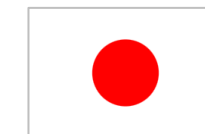
- ✓ 150人規模の**専門人材**
- ✓ 国内有数の**GRC**専門企業
- ✓ **10年以上**の実績
- ✓ **ワン・ストップ**サービス
- ✓ **グローバル金融テック**

市場環境

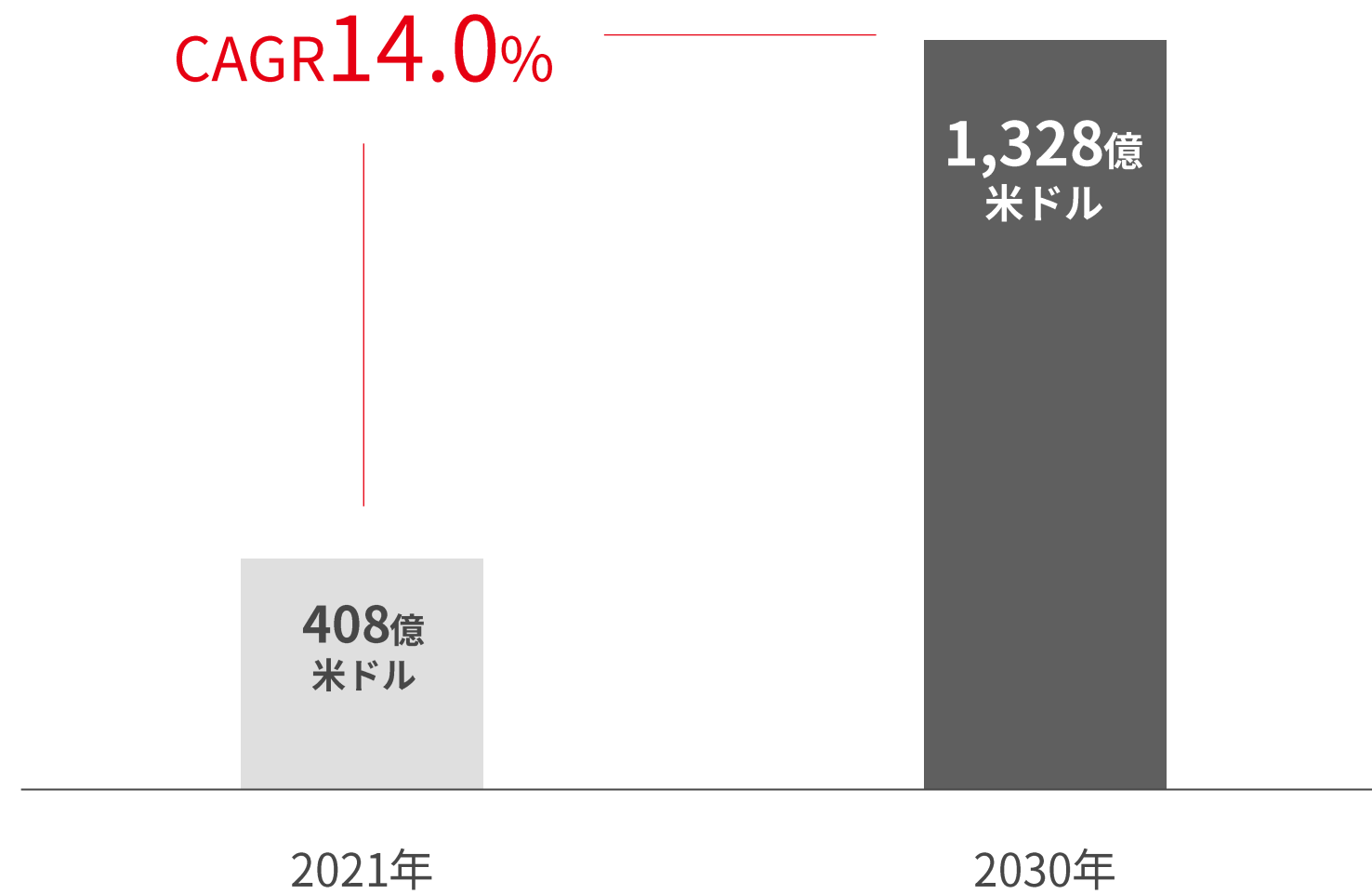
- ✓ 国内のGRC市場についてまだ数字はないが、GRCとセキュリティの対応は企業経営における喫緊の課題
- ✓ 世界のGRC市場は年平均14.0%の成長と予想されており、日本においても同様の成長が見込まれる



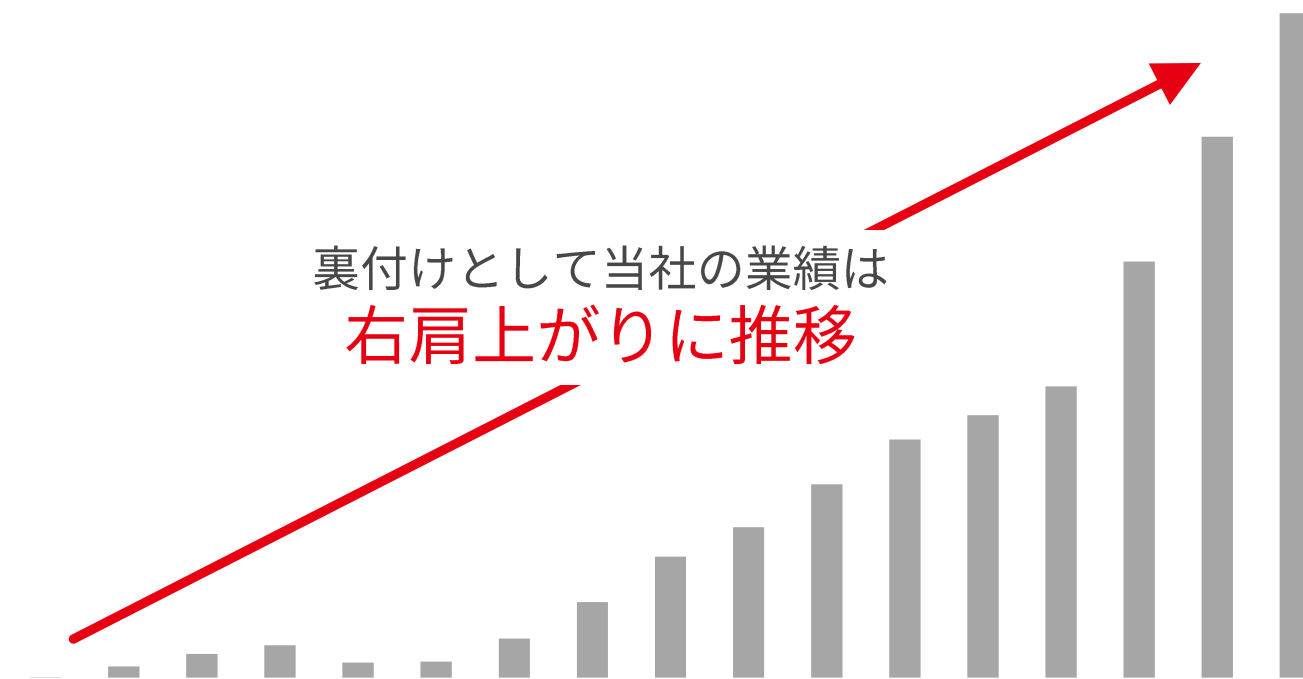
世界のGRC市場*



国内GRC市場の成長



既にGRCが企業経営において標準装備されている欧米と足並みを揃えるためにより早いスピードで市場が成長する可能性が高い



競合環境

- ✓ 日本で唯一の経営の守り特化型企业
- ✓ 国内のグローバル企業による利用を見据えたサービスの展開

外資系大手会計コンサルやソリューションベンダー

フルスペックで高価

ソリューション



プロダクト



経営の守り特化型

継続的な契約を見越し、リーズナブルな価格で提供

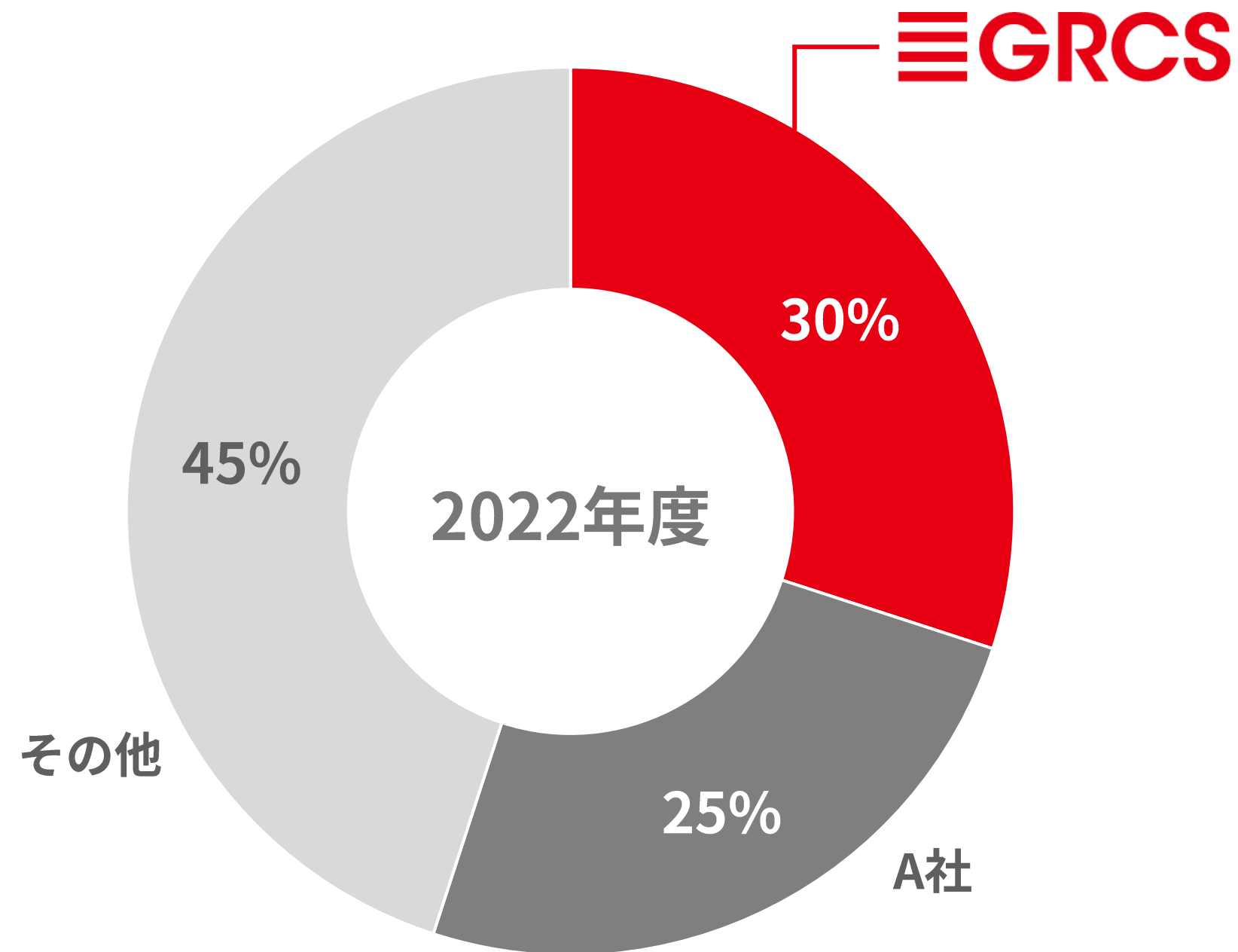




- ✓ 自社開発プロダクトの利用
- ✓ 10年以上に渡るノウハウの蓄積

GRCツールの参入企業動向

- ✓ 自社製品がGRCツールの参入企業動向調査でトップシェア獲得



国内シェア率
No.1

免責事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。

これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、必ずしも既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。



www.grcs.co.jp